

東海支部 2019 年度 総会・講演会

2019 年 7 月 28 日に、津田塾大学同窓会東海支部の総会・講演会が開催され、会場の名古屋クレストンホテルには、来賓、講師、会員、同伴者、合わせて 59 人の参加者が集いました。

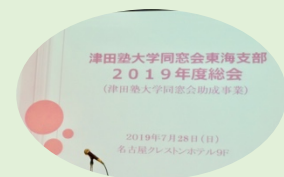


第一部・総会は、羽澄支部長の挨拶から始まりました。支部長からは、5 月 26 日-27 日に行われた一般社団法人津田塾大学同窓会総会の報告があり、支部会員は、2020 年に創立 120 周年を迎える大学の現状と新しい取り組みを知ることができました。



また、津田梅子先生が創立された女子英学塾からすぐれた人材が輩出したことが、新五千円札の肖像に梅子先生が選ばれた理由であるとの高橋学長のお話の紹介もありました。

続いて、2018 年度収支報告と 2020-2021 年度役員が承認されました。



総会の最後には、ご来賓の津田塾大学同窓会会長・飯野正子先生よりご挨拶をいただきました。飯野先生も梅子先生が新五千円紙幣の肖像に選ばれたことに触れられ、また、津田の力と同窓生の絆を感じた海外での 3 つの経験もご紹介くださいました。誇らしいものを共有して絆を強めながら、同窓生がともに過去を振り返り、次の世代を育てることのできる同窓会の活動は重要であるとの言葉に、会員はたいへん勇気付けられました。

第二部・講演会「歌舞伎はこんなに楽しい！」には、講師として歌舞伎ソムリエ・歌舞伎公演イヤホン解説者のおくだ健太郎先生をお迎えしました。

先生は、高校2年生で初めて見た歌舞伎の演目『操り三番叟』、『寺子屋』、『阿古屋』の見どころを、役者のセリフと動きを交え、広い会場をいっぱいに使って、ダイナミックに解説してくださいました。



また、観客からの掛け声や、舞台の仕掛け、演目の配置といった歌舞伎の魅力についても、先生のご経験や観劇のエピソードを交えた奥の深いお話をうかがうことができました。



何百年も続いている歌舞伎という芸能をマラソンにたとえ、息の長い付き合いをすることによってだんだんわかってくる醍醐味を多くの人に伝えたいという先生の思いに、歌舞伎好きの会員も、まだ歌舞伎を見たことがない会員も、すっかり引き込まれたひとときでした。

第三部の昼食会は、飯野正子会長の乾杯のご発声で始まりました。

楽しいおしゃべりと美味しい食事を楽しんだあとは、参加者全員が受付の際に解答・提出した「歌舞伎クイズ」の答え合わせです。



今回の総会では、会員の着席するテーブルに歌舞伎のヒロインの名前を使ったことから、まずは、おくだ先生と羽澄支部長によるテーブル名の解説、そして、そのあとに歌舞伎クイズの解説という流れとなりました。

おくだ先生と支部長による歌舞伎トークにも、クイズの景品贈呈にも、会場は大いに盛り上がりました。



また、会の最後には、酒向次期支部長からご挨拶をいただきました。

雍熙会の案内、会員からのお知らせなどのあと、恒例のアルマ・マータを斉唱し、2019年度の総会・講演会はお開きとなりました。

来年もみなさまとお目にかかれることを楽しみにしております。

